

ある一時代の話



函館市医師会
函館市医師会病院

やましろまさあき
山城雅明

年男といっても6回目の干支の回りになると書きたいことは、自らの来し方を振り返っていろいろ総括し、節目を考え行く末に思いを巡らすことが主な中身になります。

今まで、通り過ぎてきた「時」は長いようにも短いようにも感じるが、やってきたことが十分だったと感じることのほうが少なく、まだまだ模索の最中で答えを出すことができず、問いかけのきっかけにできるかどうかという日々です。

古い話で誠に恐縮ながら、6回り前の干支は72年前、昭和25年（1950年）になり第二次大戦が終わって5年後です。さらに私事で恐縮ですが私が生まれたのは沖縄県で、子供のころ近所で野球をして遊んでいたら、地面に小銃弾があちこちによく埋まっていました。

私の大学進学時昭和44年（1969年）4月はまだ沖縄の本土復帰前で、貨幣は米ドル、車は右側通行、県外への移動も米国民政府発行のパスポートを使用していた時代でしたから今からは想像もできず、時代は大きく変わりうるものだとすることを改めて考え直しているところです。

当時は琉球大学があったのですが医学部は設立されおらず、国は県内の医師養成のために「国内国費留学」制度を設けました。県内で一定人数を選抜して各国立大学の医学部に2～3人ずつ配置したのです。

話は飛ぶのですが6年間の医学部生活が終わり卒業を迎えました。いまさら話をするのも気が引け胸に秘めていたのですが、今述べたように医学部入学は私にとって時代が要請した「国内留学制度」でした。しかしすぐに帰省する決心はつかなかったのです。札幌と大学に慣れ親しんでいたこともあったのですが、今思うと私自身の個人的な問題で北海道の方を選んだのです。私が大学入学3年後の昭和47年（1972年）5月には沖縄が本土に復帰し、大学卒業後の昭和56年（1981年）には沖縄県に琉球大学医学部が47番目の国立大学医学部として設立されました。その間に帰省する手立てがあったのかどうか今でも分かりません。

今年は偶然にも沖縄の本土復帰50年というのですからこればかりは時代の長さを感じると同時に、自らの出処進退の難しさも感じます。

「道産子・函館市民」でいることも気にいっており、医者人生も興味はありもう少し続けられそうな気がするのですが、6回り目の干支を自らの最後の節目にして、人生の次のステージを考える機会にするのもいいことかもしれないと考える日々です。

発熱外来で 思うこと



岩見沢市医師会
岩見沢市立総合病院

さとうとしや
佐藤俊哉

1年半発熱外来を毎日やってきました。新型コロナウイルス感染を調べるための陰圧・空気清浄機の入った建物を駐車場に設置した外来です。大人は医局輪番、小児は小児科医師で回す予定でしたが、新生児や一般小児科外来・入院を診る医師とは手を分けようと、2人体制でしたので私が年中発熱外来担当とコロナ小児入院担当です。

小児の発熱外来の仕事は（1）予約なしの発熱患者の診察（親子の場合は親も一緒に診察）、（2）紹介予約の発熱患者の診察、（3）保健所依頼の濃厚接触者のPCR検査（家族の場合と保育所集団スクリーニングの場合など）です。大きい子や大人は唾液検査可能ですが、小さい子は鼻咽頭後壁のぬぐい液を取ります。実際やってみて大変なのは診察・診断です。

この発熱の原因は何？をいつも問われる仕事です。迅速スクリーニングには、溶連菌、マイコプラズマ、アデノウイルス、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、百日咳、インフルエンザウイルス、HSV・VZV、そして新型コロナウイルスがあります。令和3年はRSウイルスが2年ぶりで流行しましたが、それ以上に流行したのが、ライノ・エンテロウイルスとパラインフルエンザウイルスでした。普段は検査不可ですが、たまさかFilm Array呼吸器パネルで検査するとどちらかが陽性になることが多かったです。迅速検査で健康保険点数が取れるのは1日に2つまでですが赤字覚悟でたくさんの検査をします。コロナPCRを含めた迅速検査を紹介で当院発熱外来に頼まれるようになりました。Film Array呼吸器パネルは本来ICUのある病院で重症呼吸器感染症患者に対して点数が通りますが、コロナ禍では普通に通っています。一般化されるのならば迅速検査専門外来も成り立つのかな？と思うこともあります。

真夏に断熱材のない建物はすぐに暑くなります。エアコン稼働でもです。フルPPEで検査、採血、カテーテル尿、点滴など小児ではとても疲れる仕事が多いのですが、4～5人採血・点滴が続くと1時間以上かかり脱水になります。冬には石油暖房とエアコン暖房の2つを入れても気温が上がりません。中に着込んでの診療もつらいものです。病院建て替えの際には、本館の中に陰圧・空気清浄機付きの外来・点滴・待機部屋をそれぞれ作って欲しいものです。もっとも新型コロナウイルス感染症が5類になったらどうするのか？とは思いますが。